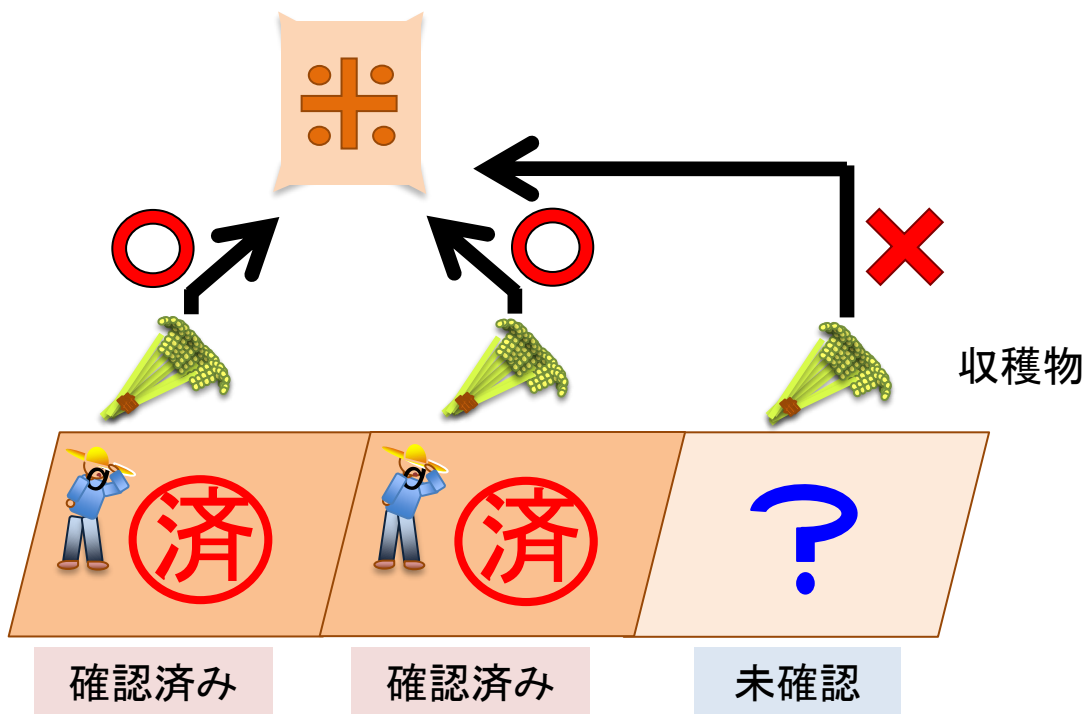


## チェック5

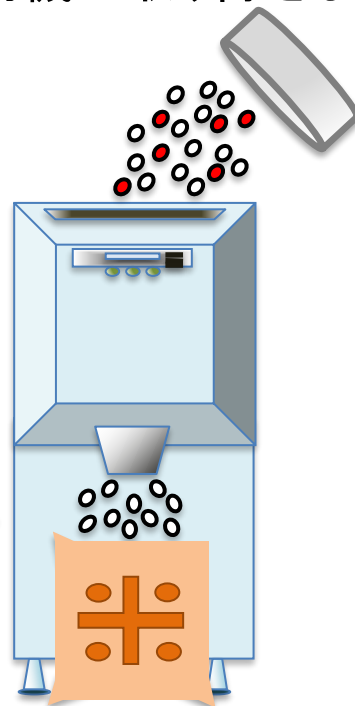
# 出荷するお米に赤米が混ざらないためには...

未確認の田んぼの収穫物は混ぜないようにしましょう。



収穫物に赤米を発見したら色彩選別機で取り除きましょう。

ただし、色彩選別機で取り除いても田んぼの中の雑草イネが減るわけではありません。田んぼでの徹底防除が基本です。



# チェック6

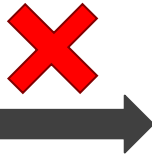
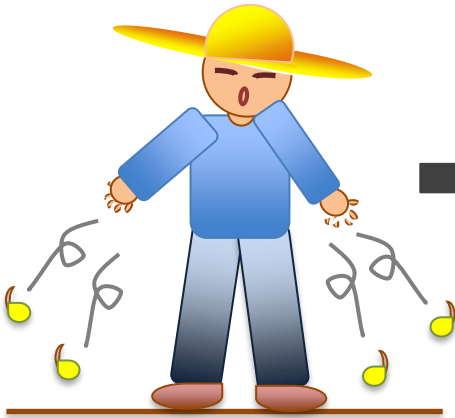
## 翌年の稲作はどうすれば...

雑草イネが発生した田んぼの翌年の管理を見直しましょう。

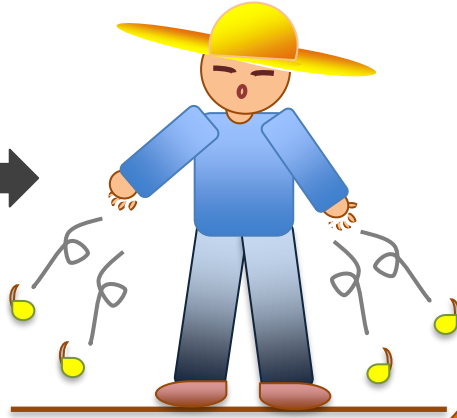
昨年度

今年度

直播栽培

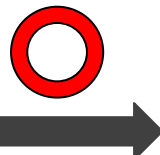
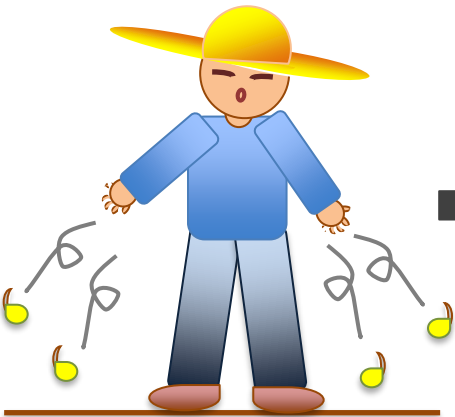


直播栽培

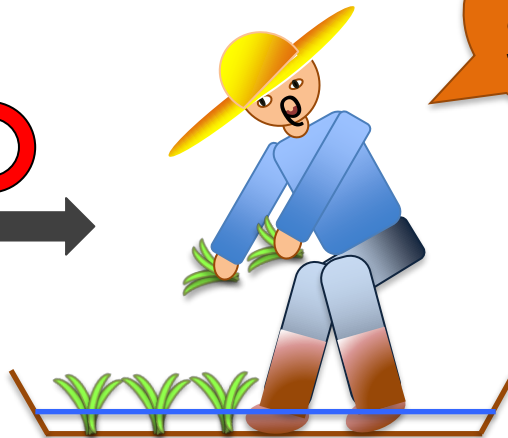


有効除草剤  
と手取り除草  
で徹底防除

直播栽培

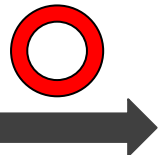
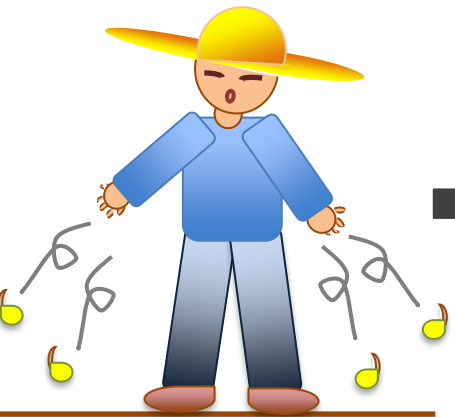


移植栽培

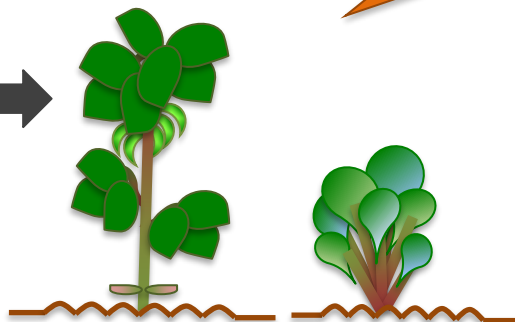


イネ科除草剤  
で徹底防除

直播栽培



畑作物栽培



## 除草剤による雑草イネ防除のポイント

直播栽培では雑草イネを防除することは困難です。移植栽培を行い、有効な除草体系で防除します。

雑草イネ防除のための除草剤散布のポイントは主に3つあります。

- (1) 雑草イネに有効な除草剤を2～3回散布します。
- (2) 初期剤の散布は早めに行います。
- (3) 除草剤散布後7～10日をめやすに次の除草剤を散布します。

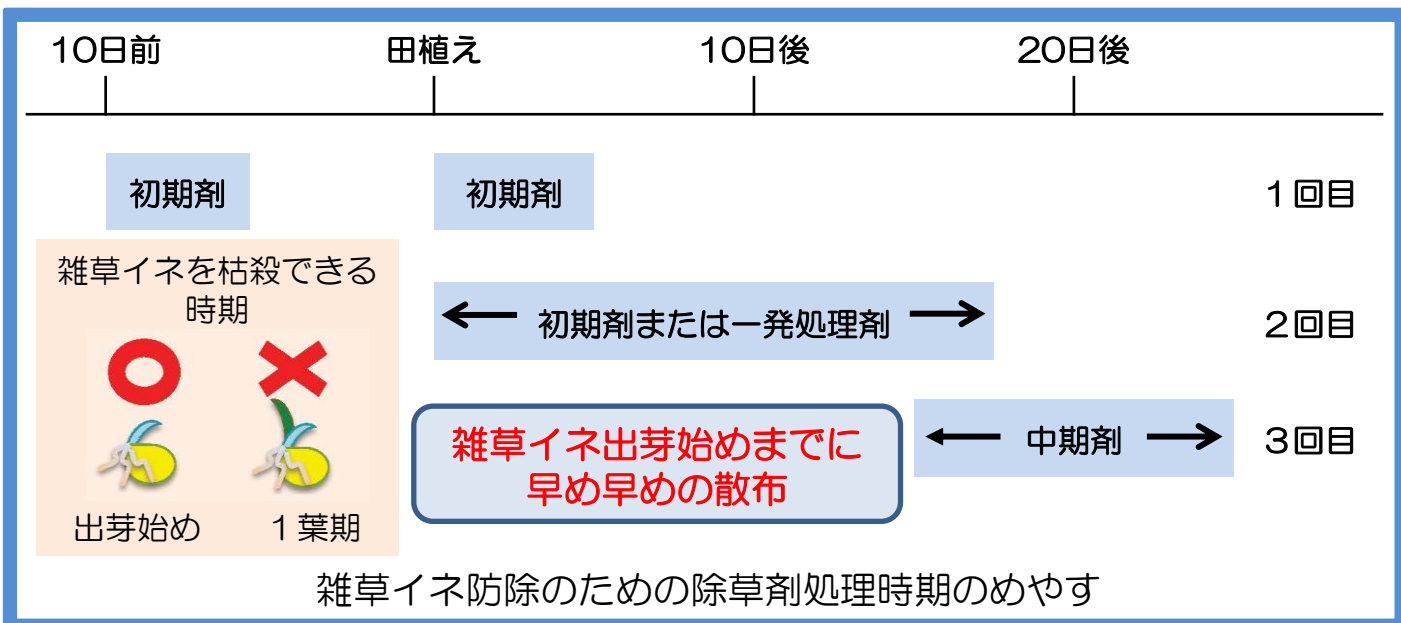
雑草イネに有効な除草剤は(公財)日本植物調節剤研究協会ホームページに掲載されている技術情報 ([HPへのリンク](#))で確認できます。

雑草イネに有効な除草剤でも、1葉期を過ぎると効果がありません。雑草イネの出芽始までに使用することが大切です。

雑草イネは水稻移植から30日間もかけてだらだらと発生する場合があります。したがって、7～10日をめやすに2～3回の除草剤散布が必要です。除草剤散布後は常時湛水を保ち、除草剤の効果をしてできるだけ長く維持するように心がけましょう。

除草剤の使用時期、使用量、使用回数については、ラベルをよく確認してください。除草剤は有効成分ごとに総使用回数が定められていますので、有効成分の使用回数に注意しましょう。

遅く発生する雑草イネは土中深くから出芽するものが多く、そのような雑草イネに対しては初期剤や一発処理剤の効果が劣る場合があります。



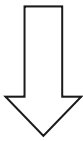
# 雑草イネによる赤米混入被害を 軽減するための総合対策チェックリスト

## 対策項目\*

## 目的\*\*

### チェック1.雑草イネの種子脱落前から収穫までの徹底した防除

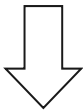
A B C D



- ★株元から抜き取る
- ★穂を刈り取る場合は再生する遅れ穂も注意して抜き取る
- ★数日間あけて収穫前まで抜き取りを繰り返す
- ★抜き取った株や穂は畦畔や圃場付近に放置せず、焼却等で確実に処分する
- 作業時の靴や衣服に付着した籾も確実に処分する
- 抜き取った雑草イネの特徴（出穂期、草丈、芒・ふ先色の有無等）を記録する

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

### チェック2.収穫までに周辺や地域内を精査



- ★発生圃場と隣接する圃場を精査する
- ★同じ生産者の圃場を精査する
- 作業機械を共用する圃場を精査する
- 同じ種籾や苗を植えた圃場を精査する
- 同じ地域の生産者に雑草イネの発生を伝えて、注意喚起する

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

### チェック3.雑草イネ種子の拡散を防止



- ★雑草イネ確認圃場の作業は、未確認（未発生）圃場の後に実施する
- 雑草イネ確認圃場では、作業後の機械の洗浄を徹底する

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

### チェック4.収穫後は脱落種子の死滅促進



- ★収穫後は耕起せず、低温による種子の死滅と鳥類等による補食を促す
- ワラなどで土壌表面を覆わない
- 冬季温暖な地域の湿田では、耕起により種子の死滅を促す

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

### チェック5.収穫物の精査と赤米除去



- ★未確認圃場からの収穫物と一緒にしない
- ★玄米に調整後、色彩選別機で赤米を除去する
- 赤米混入を精査し、発生源や履歴等の確認のために赤米の一部を保存する

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

### チェック6.翌年からの作付けや栽培方法を検討

- ★大豆等の畑作物を作付けし、イネ科対象除草剤や中耕等で防除する
- ★稲作を継続する場合は移植栽培とし、直播栽培は行なわない
- 移植栽培では、雑草イネに有効な除草剤の体系処理と手取り除草を行なう
- 水稻種籾には、自家採種籾は使用しないで保証された種子を使う

○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○  
○ ○ ○ ○

注)\* 対策項目の★は、特に効果が高く重要な項目

\*\* 目的A～Dは以下の通り

A: 赤米混入被害の軽減

B: 雑草イネ種子の拡散防止

C: 初発段階での被害拡大防止

D: 今後の対策強化に活用